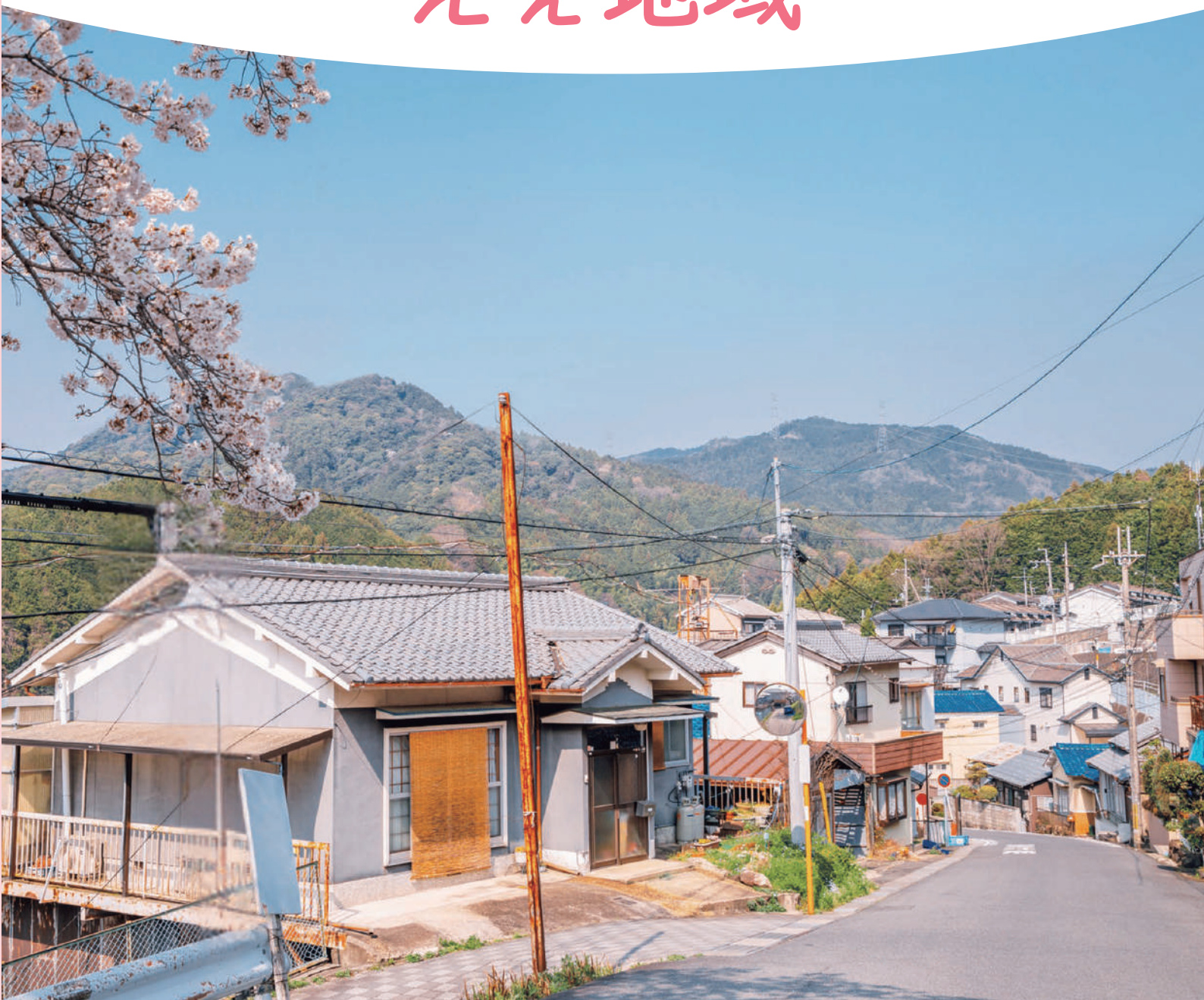


“生ききる”を “みんなで支え合う” “ええ地域”



目次

はじめに	1
プロローグ	2
トークセッション	3
話題提供	
①倉吉市社会福祉協議会	4
②米子市社会福祉協議会	6
③北栄町社会福祉協議会	8
エピローグ	10
とっとり地域支え合い推進フォーラム2025 アンケート結果.....	12
コーディネーターからのコメント	14
開催要項	15
チラシ	17



はじめに

鳥取県社会福祉協議会 常務理事

松田 繁



「とっとり地域支え合い推進フォーラム 2025」を開催した3月11日は、東日本大震災からちょうど14年です。各地で災害の被害を耳にすると、あらためて地域での支え合いやつながりの大切さを感じ、同時に日頃から災害に備えていかなければならないと考えています。

平成27(2015)年から生活支援体制整備事業が始まりました。県内の各市町村で生活支援コーディネーターや協議体を設置して、それぞれの状況に応じた地域づくりを進めてきています。鳥取県社会福祉協議会では、令和3(2021)年に県から市町村バックアップ事業の委託を受けて、相談対応や生活支援コーディネーターのスキルアップ研修、情報交換会の開催などを行ってきています。

その一環として、日頃の地域づくりの取り組みや、生活支援コーディネーターの活動、それから今後の方向性についてみんなで共有していこうと、このフォーラムを開催することになりました。

テーマは、「“生ききる”を“みんなで支え合う”“ええ地域”」です。“生ききる”を“みんなで支え合う”、鳥取らしい地域づくりについて、皆さんと一緒に考えていくために、ぜひこの報告書をご活用いただければ幸いです。



プロローグ

未来へつなぐ鳥取らしいまちづくりの発信

鳥取県社会福祉協議会 地域福祉部 部長

川瀬 亮彦



鳥取県社協では、令和3（2021）年より県から委託を受けて、生活支援体制整備のバックアップ事業を実施し、各市町村に訪問しています。

今日は「鳥取らしい」をテーマに掲げてこのフォーラムを企画しました。さて、鳥取らしさとはなんでしょう。メディアやインターネットでは、「忍耐強く真面目でおとなしい」「ゆっくりと相手のペースで距離を取って言葉を交わしながら信頼関係を築いていく」といった県民性や、「近所づきあいが残っており、おすそ分けの量も多い」「郷土愛が強く、協力し合って地域活動を継続している」などの地域のつながりも挙げられています。

一方で、人口最少県で「田舎」と言われます。「雨が多い」「車社会で公共交通機関が廃止」などもネガティブなイメージです。ですが、言い換えれば、コンパクトでまとまりやすい、水も作物も豊富、家族や知人による送迎など気かけ合いの機会があるということです。「あるもの探し」に思考を変えていくことで、ポジティブな印象にもなります。

戦前、アメリカやヨーロッパの諸外国では「コミュニティオーガニゼーション」という手法が浸透しました。地域の中で課題を見つけてきて、地域の中で課題を解決する手法です。戦後、この考えを取り入れていこうと社会福祉協議会が生まれました。この考えは、生活支援体制整備事業が目指すところと合致すると思っています。

さらに未来へつなぐために、生活支援コーディネーターや自治体、地域の関係者が知った情報を可視化して情報共有をする必要があります。そして、ぜひ、発見した地域の活動は、生活支援コーディネーターや自治体と一緒に成果として受け取ってください。当たり前と思うような活動も、意識的につながった人たちから得た貴重な情報で、それを組み合わせる結びつける、そうしてつないだ意味を成果として共有することが大切です。

最後に、地域で「生ききる」とはどういうことでしょうか。人の暮らしを考えると、まずは地域に暮らしている住民や地域の団体の暮らしぶりを見聞きしなければなりません。生活支援体制整備事業においても同様で、事業をまわすことがその目的ではないはずです。皆さんも、それぞれの地域に暮らす一人の住民です。同じ「住民」という目線や感覚で、いろいろな地域活動にも、ぜひ関わり、ご自身の感覚を磨いてください。

トークセッション

「小さな県だからこそ、豊かなつながりは日本一!？」 ～鳥取県民の“らしさ”を“輝き”に変える力

令和6(2024)年8月、地域支援事業実施要綱及び介護予防・日常生活支援総合事業のガイドラインが一部改正されました。生活支援体制整備事業においても、「住民参画・官民連携推進事業」の創設などの新たな視点が加えられたほか、多世代交流の促進や地域資源の活用といった要素が、これまで以上に強調されています。

住民主体を考えたときに、最初に着眼しなければならないのは、本来的な住民主体、つまりすでにあるつながりや営みからお互いを気かけ合い、支え合っていることを知る視点です。

そして、多世代の地域住民をつなげ、地域の多様な活動への主体的な参加を促すことも生活支援コーディネーターの業務の目的に明記されました。

さらには、対話とネットワークの構築、つまり、地域の未来を話し合う場をつうじて、ともに地域の未来を考えていくことが求められています。

トークセッションでは、これらの3点に特に着目し、倉吉市社会福祉協議会、米子市社会福祉協議会、北栄町社会福祉協議会から報告をいただきました。

すでにあるつながりに着目し、地域からその意義を学び、暮らし続ける支援を一緒に考えていった倉吉市社会福祉協議会、子育て中の母親たちのゆるやかなネットワーキングと、子ども支援を軸としたシニア世代の活躍支援を応援した米子市社会福祉協議会、小さな気かけ合いの思いを高めながら協議体でさまざまな活動が生み出されている北栄町社会福祉協議会の報告を、次ページから紹介します。



話題提供①

倉吉市社会福祉協議会

倉吉市社会福祉協議会 生活支援コーディネーター

林原 香里さん



北谷地区の「生ききる」

倉吉市生活支援体制整備は、平成 30(2018)年にスタートし、令和 5(2023)年度から各包括圏域に 1 人が配属され、全 6 人の体制になりました。

今日は、倉吉市内で一番高齢化率の高い北谷地区についてお話しします。北谷地区は、今日のテーマでもある「生ききる」を、住民の皆さんが強く言っていた地域です。

北谷地区の人口は 1,164 人、高齢化率は 48.8%です。自治公民館の数は 18 集落で、加入率は 70%を超えています。老人クラブは 2 つ、いきいきサロンは 6 つあります。

主な産業は、米と果樹、野菜や花などをつくっています。特に米づくりは集落単位や、認定農業者による経営を行っています。医療機関、スーパー、コンビニ、ガソリンスタンドはありません。小規模多機能型居宅介護支援事業所が 1 か所、保育所も 1 か所です。小学校は令和 6(2024)年春に廃校になり、隣の地区と統合しました。

地区の課題は、やはり人口の減少です。人を誘ったり、人を活かしたりする場が少なくなり、さらにコロナ禍で加速され、運動会や祭りも縮小や、やめようかという話も出ていました。「大きくなったね」「久しぶりだね」と住民同士がつどう機会が減り、地区としての一体感がなくなってきたと感じているそうです。人口は 70 年で 63%減少し、出生率は 1 桁の前半。このまま対策をしなければ 40 年で人口はゼロになると言われています。

そして、高齢化にともなういろいろな課題がある中で、地区のコミュニティセンター、生活支援コーディネーター、包括、保健師と

作戦会議をして、健康と介護予防、地域づくりを一体化した地区のアプローチを考えてみることになりました。

課題の提案ではなく、よいところを見つけよう

最初にしたことは、専門職目線の地域の課題ばかりを提案するのではなく、地区のよいところを見つけて発表しようということでした。ちょうど秋の稲刈りのシーズンで、地区全体の稲穂が黄金色に輝き、写真を撮って福祉懇談会で話題にしました。そのほか、生協に通う皆さんが待っているところ、美しい風景を見ながら子どもたちが登校していること、農業に携わっている姿、おいしい牛乳をつくっているところ、地域の伝統食のこも豆腐、地元の人が好きだという景色など、たくさんの写真を出しながら、日常の風景を紹介しました。

そのときに地区の人が、「自分のふるさとをこんなに褒めてくれてうれしかった」と言ってくれました。「いろいろな課題は自分たちも分かっているけれども、自分にとっては大好きなふるさとで、ここでみんなと力を合わせて生きたい」という人もいました。

やはり主役はそこに暮らす人々です。いろいろな課題もありますが、「誰かの役に立ちたい」「まちをよくしたい」という思いや希望も住民のニーズです。

物事には必ず両面性があります。コミュニティセンターの岩垣館長からは、こんなことを教えてもらいました。「高齢化率が高いということは、元気で長生きする人が多いということ。それは食生活とか環境とか、いろいろなものを引き継いできたからではないか。高齢者は知恵や経験、人脈があり、人口が少

ないということは、一人ひとりの存在価値が高く、結びつきが強いということ」です。一人の人の変化にいち早く気づき、対応できることは、この地区だからできることの1つです。

「よいところを見つけて、それを活かしながら工夫していくと素晴らしいものができあがる」ということも教わりました。厄介なのか、有用なのかは私たちの心が決めているのではないかと思います。

「生ききる」を支える取り組み

「生ききる」を支えるために、北谷地区では見守り訪問活動と情報共有のための「ぬのこ谷ホットライン会議」を開催しています。14人の高齢者に対して、民生児童委員、自治公民館、コミュニティセンター、地域包括支援センター、小規模多機能居宅介護支援事業所の専門職も一緒に話し合い、情報交換をしています。訪問時は、「耳の聞こえ」や「認知機能」などのチェックリストもありますが、五感で感じたこと、どんな暮らしぶりをして

いるか、どんなことを望んでいるのか、ということも共有しています。すると、元気の中にあるちょっとした変化や困りごとに早く気づき、気かけられるのです。

また、「集まって話し合う場がほしい」という声が徐々に出るようになり、地区サロンも始まりました。

地区へのアプローチは、地域課題ばかりに注目しがちですが、住民の皆さんの思いを語ってもらい、そこを応援していきたいと思っています。どの地方にも、都会にはないよいところがあって、それがふるさとの魅力です。ふるさとが元気になることを応援することで、魅力が再発見できます。その土地で豊かな人生を送っている人が現れれば、それこそが都市の人に向けた地方からのメッセージにもなっていくと思っています。

これからも、生活支援コーディネーターとして、住民の皆さんのすてきなところや頑張っておられる様子を共に感じ、いろいろなツールを使って発信できたら、と思います。



2020年、7人のメンバーが中心となり作成。「地元の魅力を広めることで、住み続けたいと思う人が少しでも増えれば」と期待されています。

話題提供②

米子市社会福祉協議会

米子市社会福祉協議会 コミュニティワーカー
生田 汐 さん



思いや課題を聞き取り、ともに考える

米子市社協では、令和元（2019）年度、市内モデル地区2地区の地区担当コミュニティワーカーが1人配置され、令和3（2021）年度に生活支援コーディネーターを兼務。令和4年度には4人に増員され、令和6（2024）年度からは市内4エリア29地区の地区担当制がスタートしています。地区ごとに自治会長を訪問して一緒に自治会歩きをして、困りごとや地域課題の聞き取りを行いながら、地域の支援者・協力者へのつなぎ、必要な社会資源の創出の検討、地域福祉の意識の醸成などを進めています。

サロン活動や子ども食堂などをはじめとした地域の居場所づくりの支援や、支え愛マップづくり、eスポーツ体験会や、防災ゲームの開催支援、地区版地域福祉活動計画の策定に取り組む地区には、助言や情報提供など継続的に関わっています。

地区担当として地域に関わる際に、地域のことを知り、いろいろな人とのつながりを増やしていくために、地域活動団体や福祉関係の事業所などへの訪問と聞き取りを行いました。私たちの顔と役割を知っていただき、それぞれの思い、やりたいこと、課題などを聞き取り、一緒に地域のことを考えています。

お母さんたちの声から始まった「おさがりどうぞの会」

子育てサークルへの訪問をきっかけに、子育てサークルと座談会を行いました。これは子育てサークルのお母さんたちの「悩みや不安を行政や社協などいろいろな人に知ってほしい」という思いから開催したものです。地区社協や民協、市役所の子ども関係の担当課、総合相談支援センターえしこにも参加して意見交換を行いました。

「すぐに小さくなったり使わなくなってしまう育児用品を譲ったりもらったりできるといいな」という意見から発展して、子ども服のリユース事業「おさがりどうぞの会」が形になりました。着なくなった子ども服の寄付を募集して、公民館や小学校の体育館などを会場に今年度までで市内3地区、計7回の開催をしています。当初は1地区での開催でしたが、口コミやSNS、公民館同士のネットワークもあり、徐々に活動が他地区に広がり、子



保護者の声で始まった「おさがりどうぞの会」は、さまざまな人をつなぐ

育てサークルの活動としてだけではなく、地区版地域福祉活動計画の活動の一つとして開催している地区もあります。

活動後、「子育てを一人で頑張らなくていい、地域で支えるというメッセージになるのでは」「同じ思いや境遇を持った保護者の力に少しでもなれたというやりがいや達成感を感じた」という声が聞かれました。

役員の皆さんは、「今後役員をする人が、『これからやらなくてはい』ということが負担にならないように、開催をするかどうか、可能な規模や方法を考えていくことも大切」と話しています。これは、多くの地域活動でも話されている共通の課題です。そのときのメンバーでできることを話し合っ決めていくという過程を大切にすることが必要だと感じています。

「子どものためなら」がつながり、地域への愛着に

あるとき、地域住民から「地区内で子どもが歩いているところを見かけない。どこで過ごしているのだろう」という声がありました。また、「夏休み中の子どもたちの様子がわからなくなるのが心配」という学校の声を受けて、公民館や地域活動団体と相談し、長期休業中の子どもの居場所づくりとして「ぎほうこどもカレッジ」を実施しました。公民館をおもな会場として、地域活動団体や住民、地元企業、行政など地域の大人が先生となり、子どもたちに体験活動や地域交流の機会を提供するものです。

子どもたちの送迎ついでに見学をしている保護者がいることに気づき、こどもカレッジの募集案内にお手伝いボランティアの募集を載せてみたところ、複数名の応募がありました。自分の子どもと一緒に参加できること、

活動内容もサポートが中心であること、「無理なく気軽に参加できた」という声もあり、手伝ってくれる人が増えていきました。

長期休み中に何度も顔を合わせることで保護者とも顔なじみになっていきます。「次はこんなことがしたいな」「こんなルールがあったほうがいいんじゃないですか」という保護者ならではの意見を出してもらったり、運営の協力をしてくれるようになりました。ほかの公民館活動にも参加してくれるようになり、新たな地域の力の発掘にもつながっています。

また、「子どものためなら」と協力してくれる団体や企業がたくさんあり、「これならできるよ」「やってみよう」と活動がつながり、どんどん広がっていきました。子どもたちの活動を通して子どもたち、保護者、地域住民、公民館、企業、団体、社会福祉法人、いろいろな地域の大人がつながり、連携することができました。協力者にはシニア世代も多く、自然なフレイル予防にもなっています。

取り組みを重ね、確実に子どもたちと地域の大人たちが顔の見える関係になってきました。そして子どもたちも少しずつ地域への愛着が育っていると感じています。



ぎほうこどもカレッジ（長期休み中の子どもの居場所づくり）では、子どもの活動を通して保護者も地域活動に参加するように

話題提供③

北栄町社会福祉協議会



大栄よっしゃやらあ会
(北栄町第2層協議体)
石原 正さん



北栄町社会福祉協議会
生活支援コーディネーター
前田 悦子さん

すべての住民が主体に

北栄町は、旧北条町と旧大栄町が合併し、北条地区、大栄地区の2つの小学校区を地区単位としています。地区公民館や振興協議会等はなく、地域福祉活動は63の自治会が主になっています。

令和2(2020)年度、福祉や暮らしについて多くの住民から意見を聞き、町と社協の共同作業で地域福祉推進計画を策定、今年度は改定作業を行い、第2期の計画が完成しました。この計画は地域を舞台にすべての住民が主体となることを目指す内容で、計画の周知を目的に計画内容を基にした「福祉すごろく」も作成しました。福祉すごろくはいきいきサロンでも活用され、声をかける、気にかける、そっと見守るなど、住民ができることを考え、実行する意識が高まっています。

第2層協議体「よっしゃやらあ会」

北栄町社会福祉協議会では、平成28(2016)年度から生活支援体制整備事業を町より委託を受け、生活支援コーディネーターを第1層協議体に配置しています。平成30(2018)年度から北条地区と大栄地区で勉強会を重ね、それぞれに第2層協議体「よっしゃ

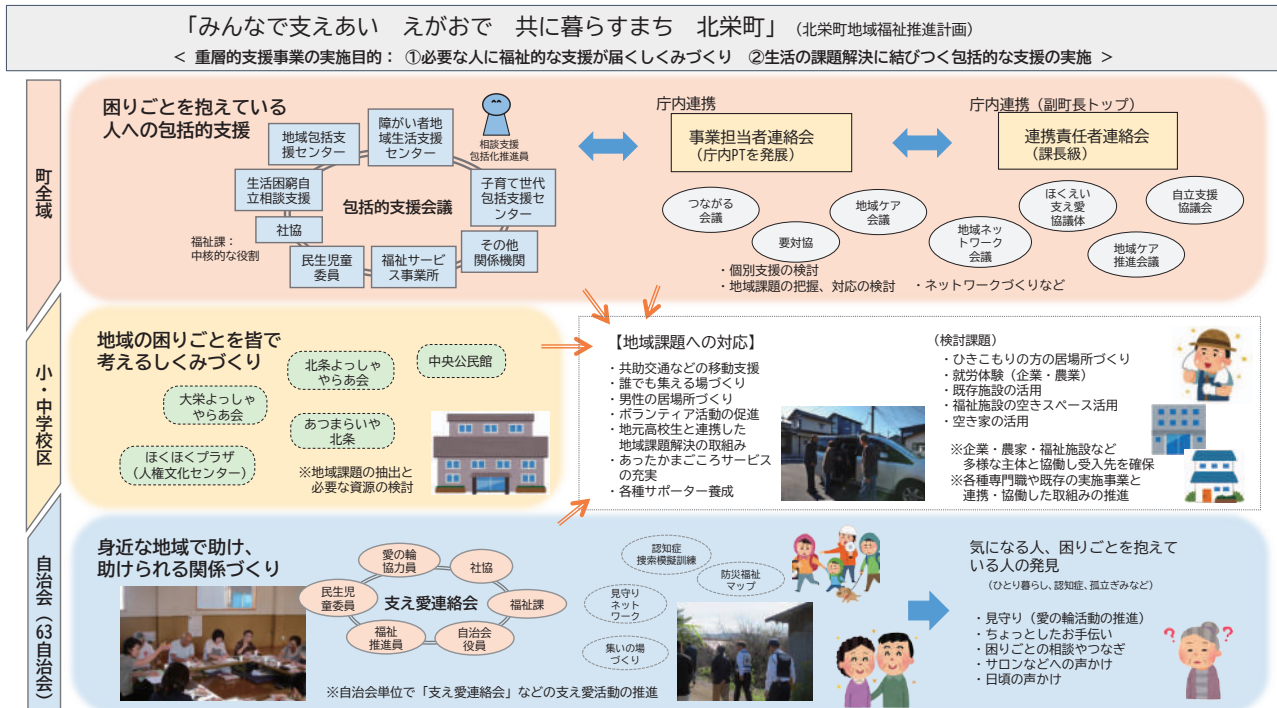
やらあ会」を立ち上げ、同時に2層のコーディネーターを配置しました。メンバーは、支え合いや助け合い活動に興味・関心のある人で構成され、会長や代表者はいません。

よっしゃやらあ会は月1回程度開催しています。つどいの場、生活支援、移動手段の確保などをテーマに、どんなまちになるとよいか、どんな助け合いが必要なのかをわがごととして考え、話し合いをしています。よっしゃやらあ会が企画・運営する誰もがつどえる場として「ほっこりひろば」「にじいろカフェ」を開催しています。

こつこつと小さな取り組みを重ね、「これくらいならば自分も地域の活動ができるかも」という理解者が少しずつ増えてきています。また、町の福祉課の担当者が一緒に考えて動いてくれています。そうした雰囲気は住民にも伝わり、住民の意識を高めることにつながっています。

石原正さんは、家族と一緒にスイカを中心とした農業に長い間携わってこられました。ご家族が他界したり、結婚で家を離れ、石原さんは一人暮らしに。町社協の見守り訪問活動で「にじいろカフェ」に誘われ、参加するようになりました。ここで第2層協議体への誘いがあり、自然に大栄よっしゃやらあ会のメンバーに。今では、「みんなと一緒に歌え

図1 北栄町における包括的支援の取組みイメージ（全体像）



たら」とにじいろカフェでギターを弾いたり、参加者の送迎をしています。

ある日は、石原さんがギターを弾き、ほかの方がハーモニカを吹き、演奏を楽しみました。「小学校に通っていたころにハーモニカを吹いていた」という80歳代の方の会話から、「一緒に演奏してみませんか」と会話が弾み、実現しました。何十年かぶりのハーモニカで思い出の曲を練習され、合奏を楽しむ和やかな会になりました。北栄町には、このように誰もが参加し、活躍できる、こうした場があるのです。

みんなが役割を持ち、できることを考える

図1は、北栄町における包括的支援の取り組みの全体像です。北栄町では令和3(2021)年度から重層的支援体制整備事業がスタートしています。社協では参加支援や地域づくりなどの委託を受け、すでにある地域のつながりや支え合う関係性を大切にして、住民の助け合い活動の応援を基本として進めています。

す。今年度は「食でつながる人とつながるプラットフォーム『ほっとかけはし』」を立ち上げました。町内の事業所や民生児童委員、住民ボランティア、農家の方などと連携し、地域とつながりにくい人のつながれる場を4回開催しました。重層事業も生活支援コーディネーターが担い、協議体でも解決策を考え、個の支援と地域づくりの両輪で地域福祉の推進を図っています。

生活支援体制整備事業を開始し、その後、重層的支援体制整備事業を始めたことで、さまざまな人とつながりや事業を活用しながら個別支援と地域づくりを一体的に進めています。みんなが役割を持ち、小さなこと、できることをみんなで考え、地域福祉の推進を図っています。行政、町の皆さんとの連携を強みに今後も取り組んでいきたいと思っています。

エピローグ

「制度と実践の読み解きから見たもの」



鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局 長寿社会課
地域包括ケア推進担当 係長
植垣 望

対×談

NPO 法人全国コミュニティライフサポートセンター
地域支え合いプロジェクト 参事
宇城 絵美



鳥取県の現況から考える地域づくり

宇城 3つの市町社協から、それぞれの取り組みを報告いただきました。まずは植垣さんから、鳥取県の現況と気づきをお話ください。

植垣 鳥取県の高齢化率は、令和6（2024）年10月時点で33.9%、令和17（2035）年には36%になると見込まれています。ただ、数字は地域を知るうえでの一つのツールにすぎません。高齢化率の上昇や単身世帯の増加が課題に挙がりがちですが、その数字をどうとらえるか、活かすか活かさないかは、皆さんにかかっています。この数字から、どのような地域づくりを進めるかというプロセスを大事にしてほしいと思っています。

「フレイル」という言葉も浸透しています。今までは、「体の状態が悪くなるから外に出られなくなり、社会参加ができなくなる」

と言われていましたが、今は逆で、「社会とのつながりが減ることが体の状態に影響していく」と言われています。つまり、社会とつながっていれば、人もまちも元気になると言えるのではないのでしょうか。

3つの報告から見てきたこと

宇城 ありがとうございます。そうした視点で3市町社協からの報告をお聞きになって、感想をお願いいたします。

植垣 社会とつながれる場所とはなにかを考えたとき、生活支援体制整備事業では「サロン」「通いの場」と言われがちです。ですが、サロンをつくることが生活支援体制整備事業の目的ではありません。倉吉市社会福祉協議会からの報告は、一見、「ないもの」ばかりが目につきがちな地域ですが、そこにある地域の資源に目を向け、地域の人の意見を聞き、そこから地域の人が目指す地域づくりをみんなで考えていく、そのプロ

セスを丁寧にされ、人やまちが元気で過ごしている姿だと感じました。

今年度、生活支援体制整備事業に係るガイドラインが改正されました。たとえば、「生活支援コーディネーターは、コーディネート業務を担う者であり、資源開発そのものではない」「高齢者を含む多世代の住民、生活支援・介護予防サービス実施者、地域包括支援センター、市町村をつなげ、それらを連携・共創を推進する役割」と明記されています。対象者は高齢者を含む多世代の地域住民です。

米子市社会福祉協議会は、座談会での保護者の一言からたくさんの引き出しをつくり、その引き出しをつなぐという生活支援コーディネーターの役割を発揮し、事業を展開されました。子どものための事業がきっかけに、地域のボランティアや保護者のさまざまな力が引き出され、多世代を含めて地域で役割を発揮できる貴重な場づくりにつながっています。

ガイドラインではまた、「自分自身の関心や選択を踏まえ、自分事ととらえて自主的に社会参加できるように」とうたわれています。北栄町社会福祉協議会は、「市町村は生活支援コーディネーターと緊密な連携を取って事業を展開する」ということをまさに体現化されて、さらに地域の人が主役になって取り組みが進められています。

宇城 3市町とも非常に優れた取り組みをされていますが、共通することは、地道に住民の話を聞き、関係を紡ぎ、そしてその人たちが地域で輝き続けるサポートをしてこられた、そんなところにあると思います。

植垣 生活支援体制整備事業において、地域を知ること、地域の資源を知ること、暮らしている地域の人を知ること、そして地域の人の声を丁寧に聞き取っていくことは、とても大事なプロセスですね。

チームで進める生活支援体制整備事業

植垣 今日お越しの皆さまも、「これからどうやって活動していこうか」と悩むことがあるかもしれません。おそらく一人ではできない事業ばかりではないかと思います。地域の方の声を拾いながら、どんなところとつないでいけばよいかを模索していると思いますが、生活支援体制整備事業は一人で抱え込まずチームとなって進めていくものです。今日のお隣の席の方も、チームの一員です。抱え込まず、「これからの地域づくりをみんなで一緒に考えていく仲間がいる」と、元気になって今日のフォーラムを終えていただきたいと思います。

宇城 同じ自治体の中で、同僚の生活支援コーディネーターと、あるいは委託元の行政と関係をつくっていくことももちろん大事ですし、ふと悩んだときに隣の市町村の生活支援コーディネーターと相談ができる関係が構築されていくと、鳥取県全体としてより盛り上がり、本日のテーマとなっている「“生ききる”を“みんなで支え合う”“ええ地域”」を県全体で推進していくことにつながるのだと思います。ありがとうございました。

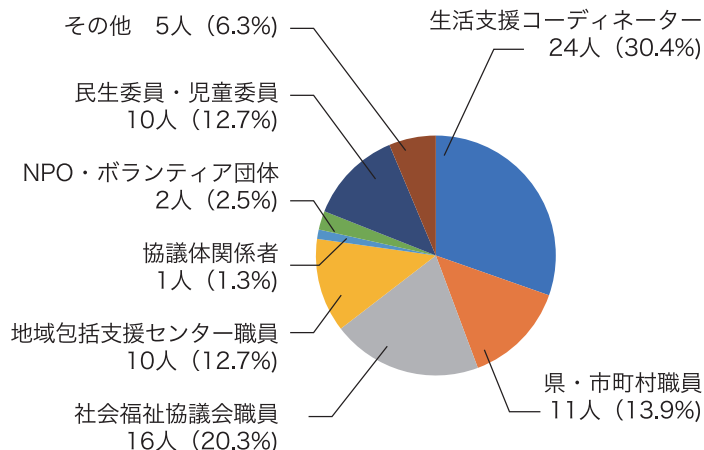
とっとり地域支え合い推進フォーラム 2025 アンケート結果

アンケート回収数 70/81名 (回収率86.4%)

令和7(2025)年3月11日 (火)

1 所属について伺います。(複数回答可)

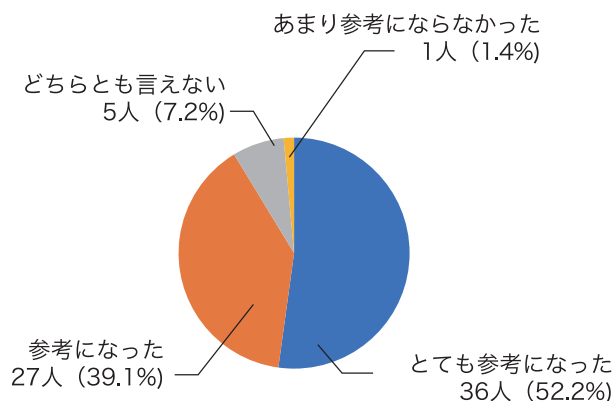
79 件の回答



2 内容について伺います。

69件の回答

フォーラム全体の内容について



【参考になったことや参考にならなかった点など】※抜粋

- ・生活支援に引っ張られ課題ばかりに目を向けていた。良い面にも目をむけていきたい。あくまでも住民が主体であることを忘れず、訪問した際の一言一言に耳を傾けコーディネートしていきたい (SC)
- ・課題解決から入ると続かない、地域を元気にすること、そのためには楽しい協議体にする。とてもよく分かりました。課題はたくさんあるが、表と裏がある、両面性があること、当たり前かもしれませんが、とても納得でした (SC)
- ・高齢者分野に限定しない地域づくりが可能であることを知り、視野が広がった。パネリストの皆さんの取り組みに背中を押していただいた (SC)
- ・課題やできないことから話し合うのではなく、今あるもの、できていることを評価しながら、楽しみながら取り組むことの視点を改めて感じました。住民を中心におく、住民主体にを再認識することができました (社協)
- ・要綱改正やそれに関する説明の研修は何度か受けましたが、実働としてなかなかイメージができなかったのが、事例発表が参考になりました (行政)
- ・北栄町のSCの配置がとても効率的にできていると思った (行政)
- ・倉吉市社協の住民さんの暮らしの動画を拝見して感動しました。こんな愛のあふれた動画を見れば、心からこの地域で良かったと思えるだろうな・・と。ないもの探しではなく、あるものに目を向ける意識を高めていこうと思います (包括)
- ・まだまだ社協の活動やSCの仕事について知らないことが多いと感じた。現場の職員は仲が良くつながっていても、上層部との思いが一致しなかったり、うまく連携できていないことが、地域住民を真ん中に置いた地域づくりをうまく推進できていない要因に感じている。そのつながりをどう現場から上げていくかが重要だと感じた (NPO)
- ・鳥取県ならではのまちづくり、地域づくりを知り、SCを学べる貴重な機会となりました。発想の転換していきながら住民を真ん中(中心)に主役になれる居場所づくりに必要な支え合いをサポートするマインドを感じることができました (司法行政)
- ・普段の生活の中に地域の支え合いがある、良い所を伸ばしていくほうが良いと感じた (民生委員)
- ・時間をかけて地域住民の声を聞き、各団体で意見交換しながら、あせらずゆっくり時間をかけて”生ききる”をみんなで見守り、いい地域をつくっていきましょう (未記入)

3 生活支援コーディネーターの活動や今後の取組について ※抜粋

(1) 参加して分かったこと、気づいたこと、認識が違っていたこと

- ・さまざまな事例を聞けて、それぞれの地域のやり方でいいのだと思いました。関係機関と連携して取り組んでいきたいです (SC)
- ・SCは高齢者の集いの場への訪問や支援がメインになりがちですが、「子どものためなら」という思いから高齢者のフレイル予防にもつながることが新しい気づきだった (SC)
- ・マイナスイメージが最初に思いつく、考えてしまうクセがついてしまっているが、川瀬部長が最初に話をしていたが、あるもの、発想の転換が大事だと思った (SC)
- ・介護保険が財源のため、高齢者主体になりがち。対象も主体も住民みんな、という意識を関係者間で共通認識をもつことが重要と感じた (社協)
- ・地域にお住まいの方が、「この地域でよかった」と思えるよう、地域の資源を活かした活動の実施を目指すことが大切だとわかった (社協)
- ・課題をあげることに注力しすぎていて、できることに目を向けることができないのは、地域づくりにおいて、もったいないと思った (行政)
- ・地域課題に注目してしまうが、思いを語ってもらい、応援していく気持ちを持つ、課題解決がすべてではない。ボランティアの運用・目的（子どものことなら）が合致すれば多数集まる、以後の協力にも望める。自然なフレイル予防にもなっていく。(包括)
- ・生活支援コーディネーターの皆様、大変とは思いますが、高齢者がどんどん増えていきます。ますますのサポートをよろしくお願いします (民生委員)

(2) 自身の所属先や地域で活かしていきたいこと、取り組んでいきたいこと

- ・いいこと、素敵なこと、頑張っていることの見える化や活動を通じて地域のつながりや活性化などを考えていきたい (SC)
- ・強みを生かした生活支援をしていきたい。さまざまな主体と顔の見える関係を築き、できることを一緒に考えていきたい (SC)
- ・地域の方の力を活かせるつながりを、SCとしてつなげていきたい。連携が重要だし、つながりや連携がないと何もできないと実感しています (包括SC)
- ・事例を振り返り、言語化する大切さ。発表の場をつくり、振り返る機会をつくっていきたい (社協)
- ・協議体の定義づけについて、自身の自治体にも落とし込んでみようと思った (行政)
- ・SC側の都合に誘導しない、協議体は無限にある、印象的でした。やっかいなのか、有用なのか、決めるのは住んでいる人！主役は住民 (包括)
- ・「地域住民主体」の実現は、声にならない部分もくみ取ることが大切。「こういうニーズがあるだろう」と推測することはとても大切だが、その推察をもって、地域住民の方とよくすり合わせる時間の時間が最も大切だと考えた (施設職員)
- ・短所は長所、見方によって変わる、ネガティブをポジティブに！外からの押し付けでなく、内側から高めていく、参加することが楽しい団体とする (民生委員)

(3) その他（ご意見・ご感想）※抜粋

- ・ギターの生演奏で歌えたこと！すばらしいですね。参加者90名のサロン活動でした (SC)
- ・久しぶりにカツ！を入れられる研修でした。めげそうですが頑張ります (SC)
- ・休憩があったら嬉しいです（他の人との交流ができる）。時間がタイト過ぎと思いました (行政)
- ・トークセッションの「小さな県だからこそ、豊かなつながりは日本一！」という題名がすばらしいです (民生委員)

コーディネーターからのコメント

生活支援体制整備事業をととして地域文化を育む

NPO 法人全国コミュニティライフサポートセンター
地域支え合いプロジェクト 参事

宇城 絵美



「とっとり地域支え合い推進フォーラム 2025」の開催にあたり、県・県社会福祉協議会、そして5つの市町社会福祉協議会の生活支援コーディネーターとともに、令和6年度、5回の企画会議の開催を重ねてきました。

企画会議といっても、事業ベースでフォーラムのプログラムを決めていく、というものではありません。また、それぞれの市町での生活支援体制整備事業の概要をヒアリングするというものでもありません。企画会議の対話で大切にしたいことは、5人の生活支援コーディネーターが、日々、どのような思いを持って地域や住民と関わっているか、ということでした。

生活支援体制整備事業は、これからの「地域づくり」という大きな目標に向かって行政、地域住民、関係各機関と考え、進めていくものですが、そのゴールは1つではありません。ましてや、何をもって地域づくりが進んでいるのか、というわかりやすい指標があるわけではなく、それゆえ、生活支援コーディネーターはときとして戸惑い、ときには数値評価による地域診断に「これでいいのか」と悩み、一方で、地域で住民との対話のなかで心温まる経験や、ときに一緒に喜んだり、深い思いに涙をしたりすることもあるのではないのでしょうか。

そうした経験をどれだけ積み重ねているかが生活支援コーディネーターとしての深みなのですが、全国的に見ても、そうした部分になかなかスポットが当たることがありません。だからこそ、企画会議で大事にしたことは、まさにこうした部分でした。

さて、フォーラムでは、企画会議のメンバーをととして地域住民から教えてもらった言葉をタイトルに盛り込み、そしてたくさんのエピソードから厳選して、皆さんにご紹介をいたしました。参加された皆さんは、発表を聞いてどんな感想を持たれたのでしょうか。古くからのつながり、そして新たなつながり、人と人とが出会い、わかちあい、そしてお互いを気にかけて合いながら、ときとして支えたり、支えられたり。事業化された支え合い活動ではないけれど、日常の暮らしのなかにある支え合いが息づく地域の様子や、さまざまなかたちで

活躍できる場面に触れ、「“ええ地域” だなあ」、そんなことを感じていただけたのではないのでしょうか。

そうした思いを実感できるところは、皆さんの地域にも必ずあります。それを知り、住民と思いを同じくし、広げていくこと。時間はかかりますが、地域をいとおしく思う人が増える、まさに「地域文化を育む」活動です。そうしたことが、生活支援体制整備事業をととして実現できれば、と願わずにはられません。



フォーラム企画委員の皆様

とっとり地域支え合い推進フォーラム2025

開 催 要 項

“生ききる”を“みんなで支え合う” “ええ地域”

1. 趣 旨

本県では、地域共生社会の実現に向けて、「住民同士のつながりを大切にしながら、社会的孤立を生まない、温もりのある支え合いのまちづくり」が進められています。

その中で、身近な地域で住民と一緒に地域づくりに取り組む生活支援コーディネーター(SC)の活動に着目し、なぜ地域の中で多様なつながりや支え合いが大切なのかを改めて考えます。

そして、鳥取県だからこそできる“未来へつなぐまちづくり”の方向性とSC活動の目標づくりのメッセージを発信し、このまちで“生ききる”を支え合う地域づくりをみんなで共有し推進していくフォーラムとして開催します。

2. 主 催 鳥取県・鳥取県社会福祉協議会

3. 日 時 令和7年3月11日(火) 13:20~15:30

4. 会 場 倉吉体育文化会館 2階「大研修室」(倉吉市山根529-2)

5. 参加対象者

○県内の生活支援コーディネーター(地域支え合い推進員)、県・市町村行政関係課職員、地域包括支援センター職員、市町村社協役職員、コミュニティワーカー、生活支援体制整備事業協議体等で地域づくりに携わる関係者

○自治会、地区社協、民生委員・児童委員、福祉推進員、愛の輪協力員、ボランティアなど地域福祉活動関係者

○地域づくり、地域おこし、住民活動に興味関心のある方など

6. プログラム (裏面参照)

7. 参加費 無料

8. 申込方法

参加申込みは、下記 URL または QR コードからお申し込みください。

参加申込みフォーム URL <https://forms.gle/1TqMKh9UFDVKPAes7>

または、別添「参加申込書」に必要事項を記入のうえ、電子メール又はFAXでお申し込みください。



9. 申込期限 令和7年3月5日(水)まで

《プログラム》

日 程	内 容
13:20～13:30	【開会・オリエンテーション】
13:30～13:50	【プロローグ《序章》】 「未来へつなぐ鳥取らしいまちづくりの発信」 鳥取県社会福祉協議会 地域福祉部
13:50～15:20	【トークセッション】 テーマ「小さな県だからこそ、豊かなつながりは日本一!?」 ～鳥取県民の“らしさ”を“輝き”に変える力 《話題提供者》 ・米子市社会福祉協議会 コミュニティワーカー 生田 汐 さん ・倉吉市社会福祉協議会 生活支援コーディネーター 林原 香里さん ・北栄町社会福祉協議会 生活支援コーディネーター 前田 悦子さん ・大栄よっしゃやらあ会（北栄町第2層協議体） 石原 正 さん 《コーディネーター》 特定非営利活動法人 全国コミュニティライフサポートセンター 地域支え合い推進プロジェクト 参事 宇城 絵美さん （プロフィール） 2003年にCLCに入職、以後はおもに取材や編集業務を担当。 青森県、愛知県、和歌山県、沖縄県で生活支援体制整備事業に係るアドバイザーを拝命。ほか、福島県福島市、長野県木曽町、愛知県一宮市、和歌山県みなべ町などで、地域のつながりのたいせつさを再確認しながら未来へつなぐ地域づくりをともに考える支援を展開。 令和6年度地域づくり加速化事業アドバイザー。社会福祉士。
15:20～15:30	【エピローグ《鳥取県からのメッセージ》】 「制度と実践の読み解きから見えたもの」 鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局 長寿社会課

10. 参加に当たってのお願い事項等

- (1) プログラム内容と時間帯は、若干変更になる場合がありますので、予めご了解ください。
(2) 自然災害等により急きょ中止又は延期する場合は、本会ホームページにてお知らせします。

11. 個人情報の取り扱い

「参加申込書」に記載された個人情報は、本フォーラムの運営管理に関する目的にのみに使用します。

12. お問い合わせ先・申込先

社会福祉法人鳥取県社会福祉協議会 地域福祉部 （担当：眞弓、山本、中田）
〒689-0201 鳥取市伏野 1729-5 県立福祉人材研修センター内
電話 0857-59-6332 ファクシミリ 0857-59-6340
メールアドレス chiiki@tottori-wel.or.jp

とっとり
地域支え合い推進フォーラム2025

“生きる”を

“みんなで支え合う”

“ええ地域”

参加
無料

日時

3/11(火)
13:20～15:30

会場

倉吉体育文化会館
2階 大研修室
(倉吉市山根529-2)

開会(オリエンテーション) 13:20 ～ 13:30

プロローグ
13:30～13:50

「未来へつなぐ鳥取らしいまちづくりの発信」
鳥取県社会福祉協議会 地域福祉部

トークセッション
13:50～15:20

「小さな県だからこそ、豊かなつながりは日本一!?」
～鳥取県民の“らしさ”を“輝き”に変える力～

《話題提供者》

米子市社会福祉協議会 コミュニティワーカー

生田 汐 さん

倉吉市社会福祉協議会 生活支援コーディネーター

林原 香里 さん

北栄町社会福祉協議会 生活支援コーディネーター

前田 悦子 さん

大栄よっしややらあ会(北栄町第2層協議体)

石原 正 さん

《コーディネーター》

特定非営利活動法人 全国コミュニティライフサポートセンター

地域支え合い推進プロジェクト 参事

宇城 絵美 さん

エピローグ
15:20～15:30

「制度と実践の読み解きから見たもの」
鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局 長寿社会課

主 催 鳥取県・社会福祉法人鳥取県社会福祉協議会

開催趣旨

本県では、地域共生社会の実現に向けて、「住民同士のつながりを大切にしながら、社会的孤立を生まない、温もりのある支え合いのまちづくり」が進められています。

その中で、身近な地域で住民と一緒に地域づくりに取り組む生活支援コーディネーター(SC)の活動に着目し、なぜ地域の中で多様なつながりや支え合いが大切なのかを改めて考えます。

そして、鳥取県だからこそできる“未来へつなぐまちづくり”の方向性とSC活動の目標づくりのメッセージを発信し、このまちで“生ききる”を支え合う地域づくりをみんなで共有し推進していくフォーラムとして開催します。

参加対象

- 県内の生活支援コーディネーター(地域支え合い推進員)、県・市町村行政関係課職員、地域包括支援センター職員、市町村社協役職員、コミュニティワーカー、生活支援体制整備事業協議体等で地域づくりに携わる関係者
- 自治会、地区社協、民生委員・児童委員、福祉推進員、愛の輪協力員、ボランティアなど地域福祉活動関係者
- 地域づくり、地域おこし、住民活動に興味関心のある方など

申込方法

- ・参加申込みは、下記のURL、またはQRコードからお申込みください。
<https://forms.gle/1TqMKh9UFDVKPAes7>
- ・申込期限 令和7年3月5日(水)
- ・または、下記「参加申込書」に必要事項を記入のうえ、電子メール又はFAXでお申込みください。



とっとり地域支え合い推進フォーラム参加申込書

氏 名	所属先・役職名	連絡先電話番号	メールアドレス	備 考

《問合せ・申込先》

社会福祉法人 鳥取県社会福祉協議会
地域福祉部

〒689-0201
鳥取県伏野1729-5 県立福祉人材研修センター内
TEL.0857-59-6332 FAX.0857-59-6340
MAIL.chiiki@tottori-wel.or.jp
担当:眞弓、山本、中田

生活支援体制整備事業に関する企画会議名簿

区分	所属・職名	氏 名
市町村 社協	鳥取市社会福祉協議会 地域支え合い支援課・地域支え合い推進員	西 尾 宏 美
	倉吉市社会福祉協議会 地域福祉課長・第1層生活支援コーディネーター	林 原 香 里
	北栄町社会福祉協議会 係長・第1層生活支援コーディネーター	前 田 悦 子
	米子市社会福祉協議会 福祉のまちづくり推進課・コミュニティワーカー	生 田 汐
	境港市社会福祉協議会 生活支援コーディネーター	志 賀 智 子

【アドバイザー】

区分	所属・役職等	氏 名
有識者	全国コミュニティライフサポートセンター 地域支え合いプロジェクト参事	宇 城 絵 美

【オブザーバー】

区分	所属・役職等	氏 名
行政主管課	鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局 長寿社会課 地域包括ケア推進担当 係長	植 垣 望

【事務局】

区分	所属・役職等	氏 名
県社協	鳥取県社会福祉協議会 地域福祉部 部長	川 瀬 亮 彦
	鳥取県社会福祉協議会 地域福祉部 副部長	眞 弓 洋 一
	鳥取県社会福祉協議会 地域福祉部 主事	中 田 光 紀
	鳥取県社会福祉協議会 地域福祉部 参事	山 本 登 司

「とっとり地域支え合い推進フォーラム2025」報告書 “生ききる”を“みんなで支え合う” “ええ地域”

発行日 2025年3月

発行 社会福祉法人 鳥取県社会福祉協議会
〒689-0201 鳥取県鳥取市伏野1729-5
TEL：0857-59-6332 FAX：0857-59-6340
<https://www.tottori-wel.or.jp>
編集・デザイン NPO法人全国コミュニティライフサポートセンター

